

## 女性の健康課題の現状

※新健康フロンティア戦略会議における資料等を基に事務局にて作成

### 1 栄養摂取と食育

- 妊婦や授乳婦は、「エネルギー」をはじめ「カルシウム」「鉄」「ビタミン D」について、1日に必要とされる所要量を確保できていない状況にある。
- 妊婦は、「たんぱく質」も1日に必要とされる所要量を下回る傾向にある。

妊婦,授乳婦のエネルギー及び栄養素摂取量

	妊婦 (n=330)		比較対照群 <sup>2)</sup> (n=330)		授乳婦 (n=338)		比較対照群 <sup>3)</sup> (n=338)	
	平均摂取量	栄養所要量 <sup>1)</sup>	平均摂取量	栄養所要量 <sup>1)</sup>	平均摂取量	栄養所要量 <sup>1)</sup>	平均摂取量	栄養所要量 <sup>1)</sup>
<u>エネルギー (kcal)</u>	1869	2153	1813	1919	2072	2589	1893	1917
<u>たんぱく質 (g)</u>	73.7	76.9	72.6	60.7	80.4	80.3	73.8	60.8
脂肪 (g)	60.4		58.9		65.7		61.2	
炭水化物 (g)	254.7		241.7		282.6		253.8	
<u>カルシウム (mg)</u>	597.7	923.3	499.6	600.0	609.4	1100.0	499.1	600.0
<u>鉄 (mg)</u>	11.0	18.4	10.6	12.0	11.5	20.0	10.3	12.0
食塩 (g)	11.7		12.1		12.9		11.6	
ビタミンA (IU)	3442	1935	2431	1800	3200	3200	2643	1800
ビタミンB <sub>1</sub> (mg)	1.20	0.90	1.08	0.80	1.20	1.10	1.07	0.80
ビタミンB <sub>2</sub> (mg)	1.42	1.20	1.26	1.10	1.50	1.50	1.30	1.10
ナイアシン (mg)	15.2	14.1	15.2	12.8	16.5	17.6	15.7	12.7
ビタミンC (mg)	126.1	60	114.3	50	130.3	90	114.0	50
<u>ビタミンD (IU)</u>	79.7	400	95.0	100	99.5	400	91.4	100
ビタミンE (IU)	9.1		8.9		9.9		9.1	

1) 第6次改定日本人の栄養所要量に基づく

2) 調査対象の「妊婦」と同じ年齢構成の非妊婦集団

3) 調査対象の「授乳婦」と同じ年齢構成の非授乳婦集団

厚生労働省「国民栄養調査」(1995-1999)をもとに分析

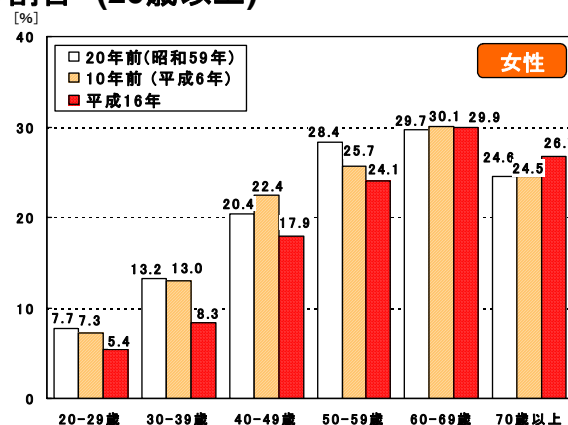
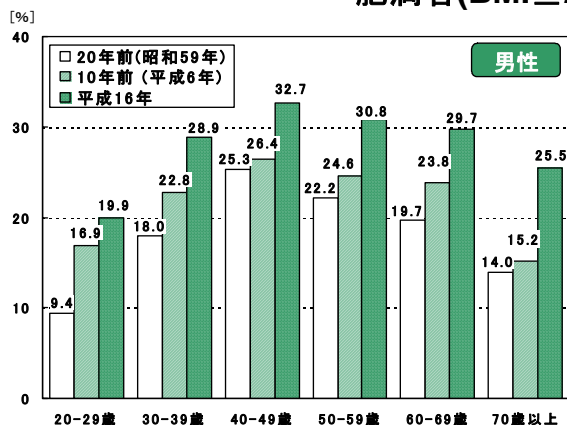
資料: Takimoto H, Yoshiike N, Katagiri A, Ishida H, Abe S. Nutritional status of pregnant and lactating women in Japan: A comparison with non-pregnant/non-lactating controls in the National Nutrition Survey. J. Obstet. Gynaecol. Res 2003;

29 (2): 96-103

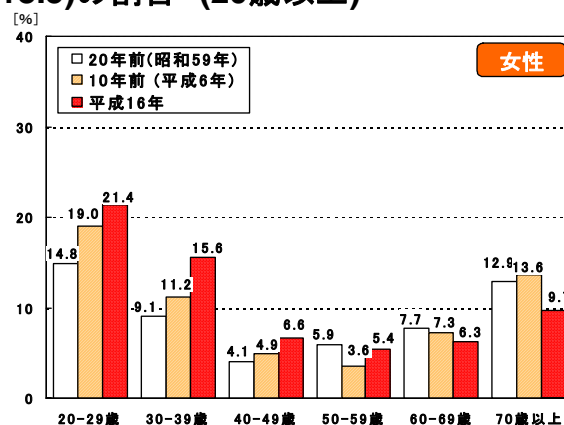
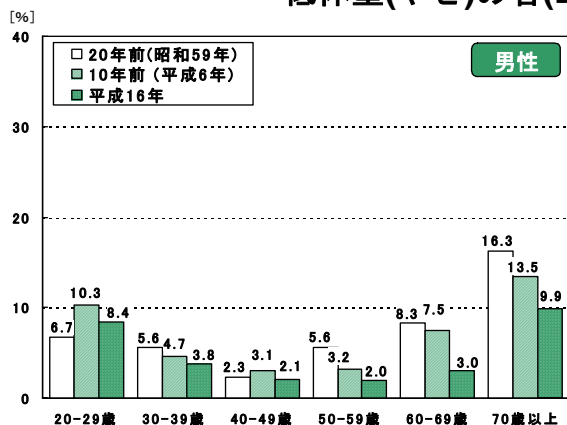
## 2 やせすぎ（過度のダイエット）

- 20-29歳女性の低体重の者の割合は、平成16年で21.4%となっており、昭和59年時の割合（14.8%）の約1.5倍となっている。

### 肥満者(BMI≥25)の割合 (20歳以上)



### 低体重(やせ)の者(BMI<18.5)の割合 (20歳以上)

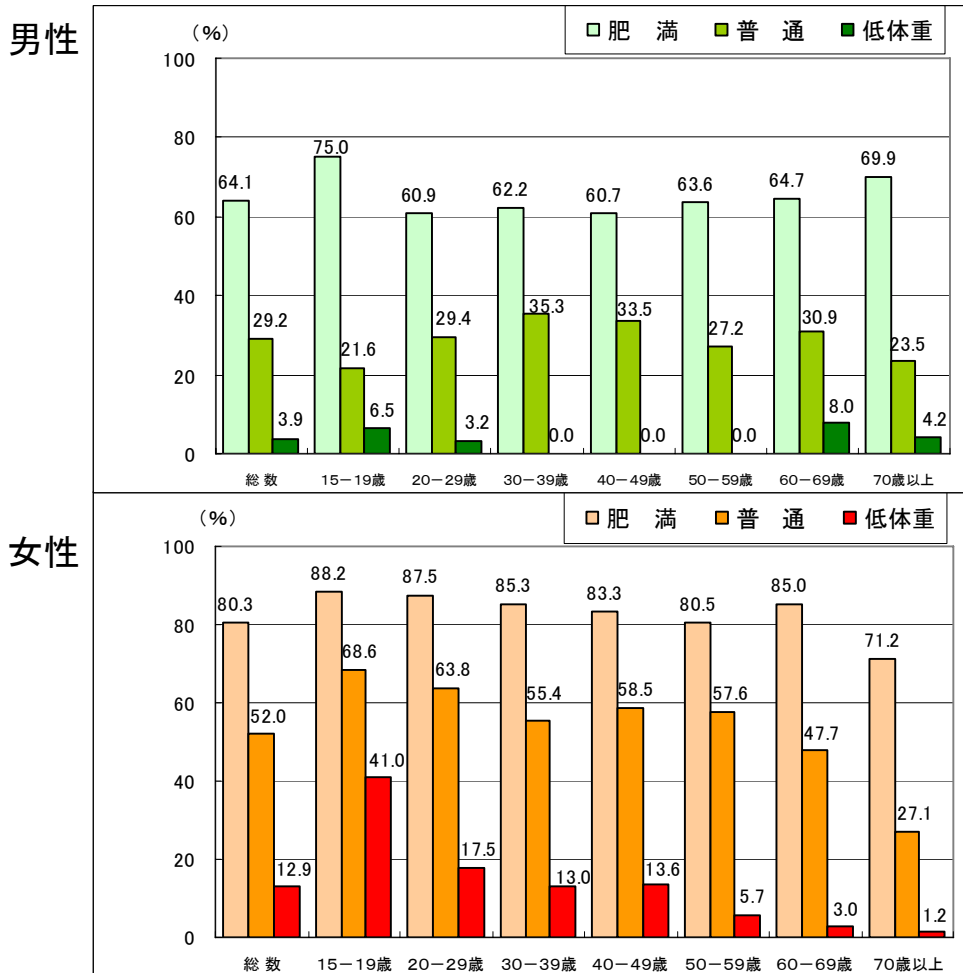


厚生労働省 国民健康・栄養調査(国民栄養調査)

※ BMI : 体格指数  $\text{Body Mass Index} = (\text{体重 kg}) / (\text{身長 m})^2$

- 低体重である20-29歳女性の17.5%（20-29歳の女性全体の約4%）が、低体重であるにもかかわらず体重を減らそうとしている。

### 体型別、体重を減らそうとしている者の割合



厚生労働省 平成14年国民栄養調査

### 3 性感染症

- 性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症は、女性患者の方が多い。
- 性器ヘルペスウイルス感染症の女性患者は、増加傾向にある。

性感染症の年次推移

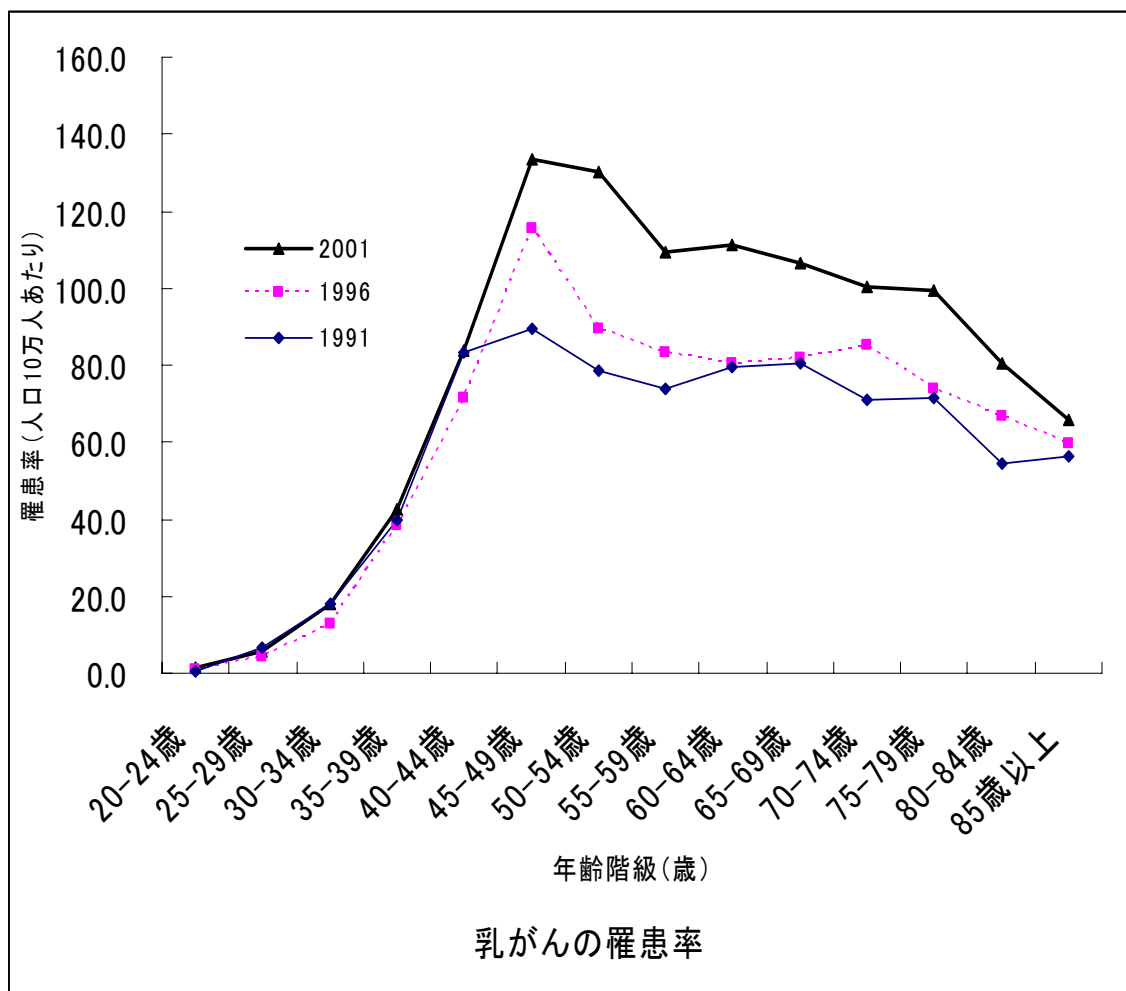
	定点調査								全数把握	
	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症		梅毒	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
平成12年	15,856	21,172	3,907	5,039	2,511	2,042	14,196	2,730	512	247
平成13年	17,497	23,339	3,957	5,357	2,814	2,364	17,205	3,457	400	185
平成14年	18,284	25,482	4,074	5,592	3,044	2,657	17,591	4,330	395	180
平成15年	17,725	24,220	4,075	5,757	3,299	2,954	16,170	4,527	388	121
平成16年	16,533	21,622	3,874	5,903	3,628	2,942	14,299	3,127	408	125
平成17年	15,220	19,837	4,129	6,129	3,795	2,998	12,374	2,628	411	132

※厚生労働省「感染症発生動向調査」

#### 4 がん（乳がん、子宮がん等）

##### <乳がん>

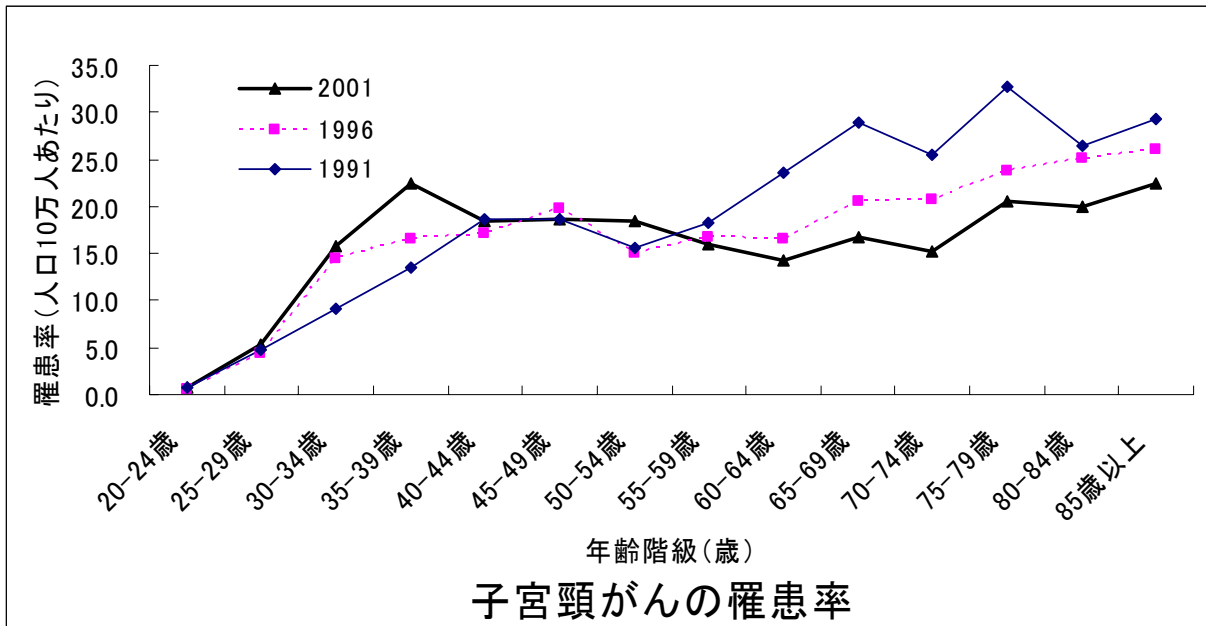
- 乳がんは30歳代に罹患率が増加し、40歳代後半にピークがある。
- 乳がん検診は、マンモグラフィと視触診の併用が有効である。



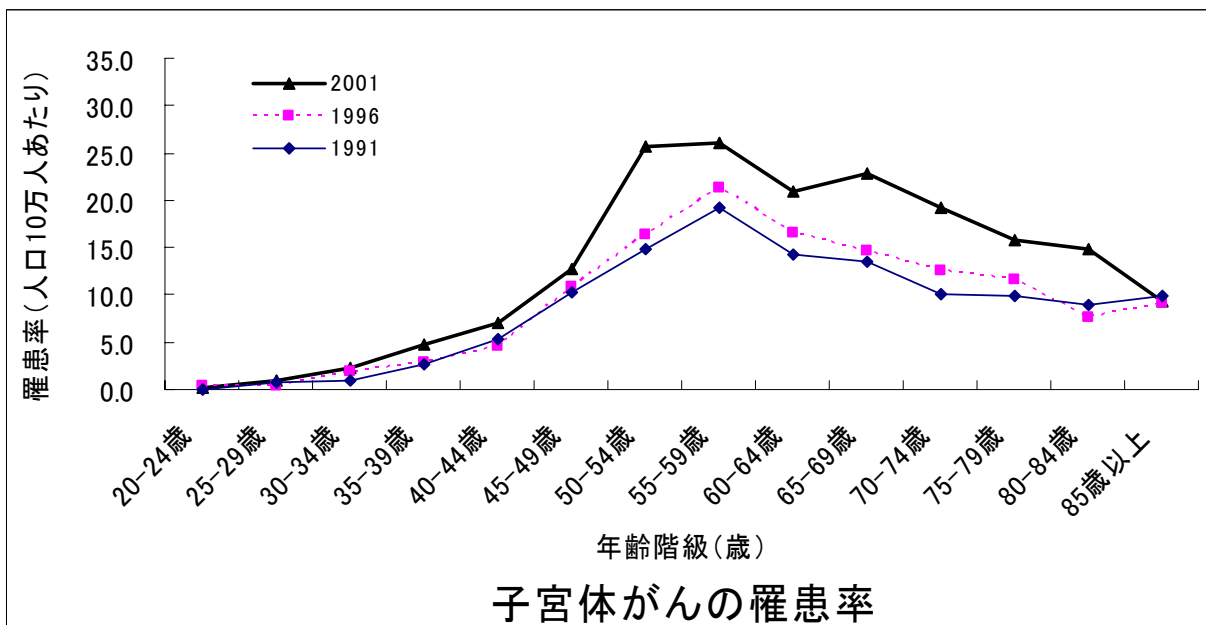
資料：「地域がん登録全国推計によるがん罹患データ」国立がんセンターがん対策情報センター

<子宮がん>

- 子宮頸がんは30歳代から罹患率が増加し、子宮体がんは40歳代から罹患率が増加する。
- 子宮頸がんのリスク要因にヒトパピローマウイルスの感染がある。
- 子宮頸がんは、細胞診による検診が有効である。



資料：地域がん登録全国推計によるがん罹患データ、国立がんセンターがん対策情報センター



資料：地域がん登録全国推計によるがん罹患データ、国立がんセンターがん対策情報センター

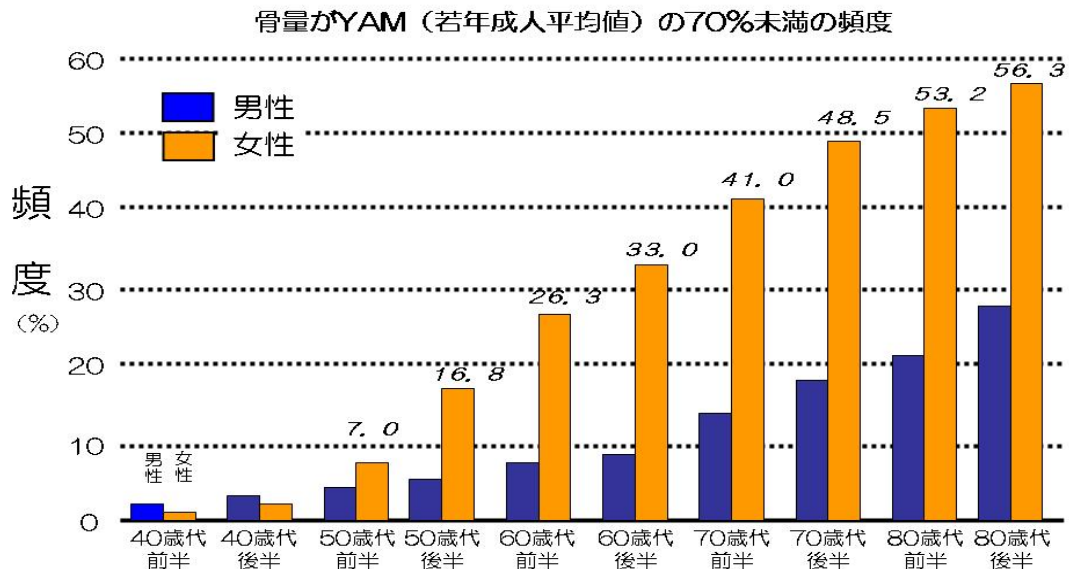
## 5 更年期障害、更年期症状

- 45-59 歳女性の総人口の推計値は約 1,330 万人である。(平成 19 年 6 月確定値、総務省統計局)
- 女性ホルモンの欠乏を考慮せずに、症状ごとの対症療法を実施しても症状が改善しないことがある。
- 更年期障害は女性ホルモンの欠乏と密接に関連しているといわれている。

## 6 骨粗鬆症

- 骨粗鬆症は、女性に多くみられる。
- 高齢者が寝たきりとなる原因のひとつである。
- 骨密度の低下だけでなく、筋肉量の減少も関与しているといわれている。
- 筋肉量は個別の事例に適した運動プログラムによって回復することが期待できるといわれている。

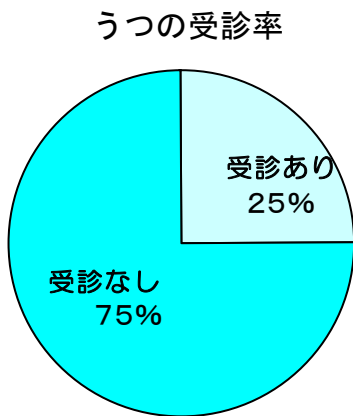
### 骨粗しょう症該当者の推定割合(年齢階級別)



新健康フロンティア戦略賢人会議第3分科会(第3回)資料より  
(山本逸雄: Osteoporosis Japan 7(1):10-11,1999)

## 7 うつ

- 思春期における女性ホルモンの増加や妊娠・出産など、女性に特有な身体的特徴により、うつ病になりやすいといわれている。
- 気分[感情]障害(躁鬱病を含む)で医療機関を受診する患者数は、女性の方が多い(平成17年患者調査)。
- うつにより医療機関を受診する者は少ない。



新健康フロンティア戦略賢人会議 第3分科会資料より

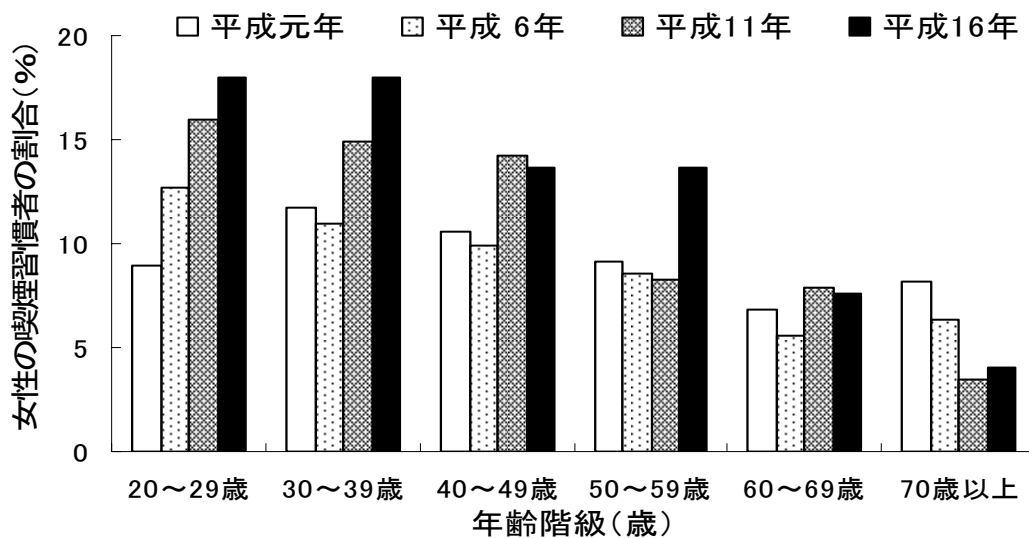
※ 心の健康問題と対策基盤の実態に関する研究

主任研究者 川上憲人

(平成14年度厚生労働科学特別研究事業)

## 8 喫煙

- 女性の喫煙習慣者の割合は、20～59歳において近年増加傾向にある。
- 喫煙については、男女を問わず、健康への悪影響が指摘されている。



女性の喫煙習慣者の割合

資料：厚生労働省 国民健康・栄養調査(国民栄養調査)

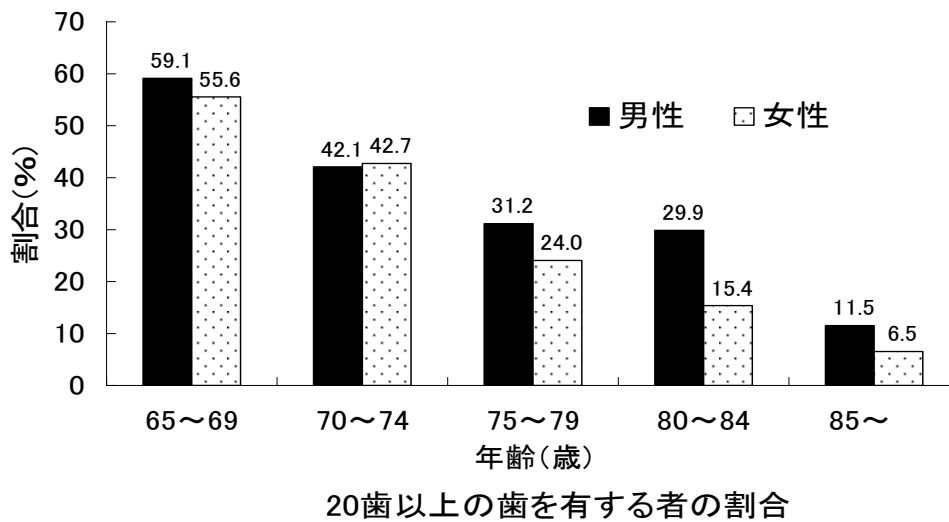


## 9 飲酒

- 女性は家庭内での孤独な飲酒となりやすく、問題飲酒の発見、医療機関の受診が遅れがちであるといわれている。
- 男性に比べて少ない飲酒量で、かつ短期間でアルコール性肝臓障害を引き起こすという指摘もある。
- アルコール依存症であると診断される以前にうつ病として治療を受けている場合もある。

## 10 歯、腎疾患等

- 妊娠/出産期には、歯肉炎の有病者が増加する。
- 妊婦の歯周状態が悪い場合には、低出生体重児が多い。
- 高齢期の女性は、男性よりも歯の数が少ない傾向にある。
- 妊娠期における腎疾患や、高齢女性の失禁が問題となっている。



資料：厚生労働省「平成17年歯科疾患実態調査」